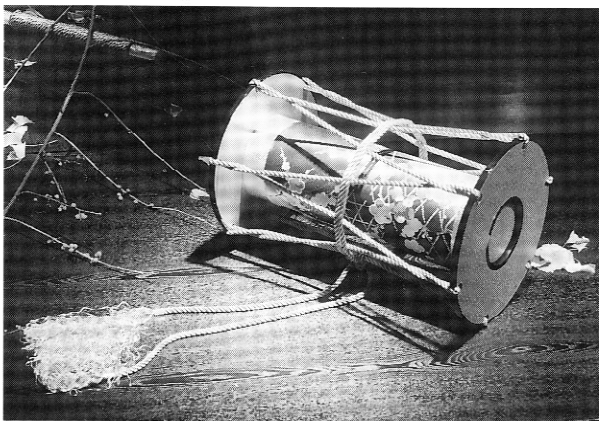


常に精神性を見直し、 人間の心を作品に託す



①円柱と球形

共にアクリルの上に加賀友禅を貼り、華やかさを出している。球形の方は着脱が可能で、季節に応じて着せ替えができる。



②鼓

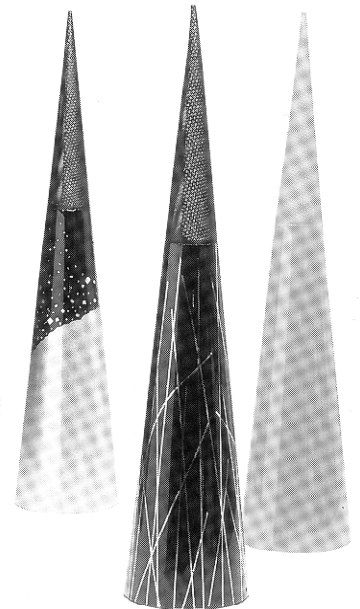
和の空間に、本物同様の存在感を与える。素材は加賀友禅と組みヒモ。

「自分で何かを表現することが好きなんです」

学生時代から音楽を聴くこと、演奏することに携わり、単純に『空間と音』を創るのではなく、人間的な感情まで引き出せるような空間を創ることができたらいいなと感じていました。その頃から、いかなる場所でも既製品の黒いまま存在するスピーカーに違和感を覚え、自己表現したいという思いが強くなりました。

第1回目の個展“和のスピーカーと空間の融合性”では、音質よりも形態にこだわりました。“和”をテーマにしたのは、外国から入ってきたスピーカーを日本人にとってなじみやすく、違和感のない形として、日本文化に取り入れたかったからです。和のスピーカーは空間と融合し、私たち日本人の心に溶け込み、感情を引き出す力を持っています。

まだまだ和に関して追求することはありますが、時期をみて“洋”にも挑戦してみたいです。いずれにしても『音』を人間と空間を媒介する一つのテーマとして考えた方がバランスがいいのではないのでしょうか。今後も常に人間中心に物事を考えて、創造力とやすらぎを高められる『空間と音』を表現していきたいです。



③円錐形

先端から音が出る。漆にアルミのテープを貼り、風になびく葦をイメージしたものの。



唐澤 誠 (からさわ まこと) 東京都出身。1974年3月、日本大学理工学部建築学科卒業。㈱永田音響設計(旧:永田徳建築音響設計事務所)を経て、79年7月に㈱唐澤誠建築音響設計事務所を設立。以後、「国立文楽劇場」「サントリーミュージアム」など数々の劇場音楽ホールの音響設計をし、95年には「長良川国際会議場」を手がけた。91年12月に唐澤さん自身がデザインした“和風スピーカー”の個展が開かれた。『日経アーキテクチュア』(92.1/20)、『室内』(92.2)、など数多くの雑誌に掲載されている。現在は上海師範大学・客員教授、同済大学・助教。